「日々の理科」（第 2781 号）　2022,-3,-4

「雪とつららの探究（２）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka

浅間高原の一角にある北軽井沢は、標高 1100～1300 メートルに位置する。四季を通じて美しいのだが、私は雪のある冬から早春が一番好きだ。

しかし、積雪期に山荘に滞在するのは実は大変なことである。一番苦労するのは、「水道の管理」だろう。昼でも氷点下の日もあるこの時期、屋外の水道管はヒーターなしでは凍ってしまう。水道管内で凍った水は膨張し、管そのものが破断してしまう。そのために、使っていない時は水を抜いておくのだが、それを復旧するのが大変なのだ。この日も、止水栓までの雪かきが重労働になった。

裏庭にあるバンガローも雪に埋まっていた。壁面には野鳥用の巣箱があるが、すでに夜間にシジュウカラが休んでいる。

裏庭の森もすっかり雪に覆われて美しい。手前の切り株の列は、「マイ・キャンプファイヤー・サークル」だが、すっかり雪で埋まってしまっている。

裏庭の縁は、急斜面になっている。ここは、利根川の支流の吾妻川の支流の支流の源頭（水源）で、夏には水流も見られるのだが、今は完全に雪に覆われている。落っこちないように注意して歩いた。

こういう深雪を歩くのには、スノーシューが便利だ。要は、足裏にかかる体重を分散する道具だ。それでも 30cm 近くももぐってしまう。なかなかの積雪だ。